

1歳6か月ごろの発達のめやす

いろいろな場面でのびのびと身体を動かしましょう

歩行が可能になると、ひとりで転ばずに安定して歩ける距離が少しずつ長くなってきます。じゃり道や坂道、砂場、家の布団の上などを歩くなど、外のさまざまな場面を好んで歩きます。たとえば、何かものがあるればそれ避けるようにまわって向こう側に行く。段差があればつかまって前向きや後ろ向きに這って降りるなど・・・



状況に合わせて身体を動かす力、バランス感覚がついていきます。
→公園や児童館など、お子さんがのびのびと遊べる場で身体を動かす経験を一緒に楽しみましょう。



声かけだけでなく、大人も一緒に行動しましょう

大人が言っていることを理解して行動できるようになってきます。「ポイしてきて」「ここにナイナイして」など、言われていることがわかって行動できるようになります。→身近な物や好きなおもちゃを使って日頃から声かけてみて、おとなと一緒に行動してみましょう。

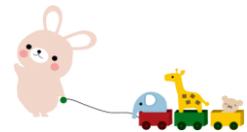
お子さんとのやりとりを楽しみましょう

自分の好きなところに自由に歩いているようですが・・・その先には**子ども**の“目標”が見えています。お子さんと一緒に動きや遊びを通して**同じものを共有**することが、ことばの発達にはとても大事です。指さしだけでなく、意味のあることばも数語でできます。大人の問いかけに応じることを楽しみ、お互いに気持ちのやり取りができる関係を築いていく時期です。→言っていることを聞いたり、応えられたらほめてあげましょう。

指さしのめやす（一般的に）

「あれとって！」など欲しいものや見つけたものを指さして伝えようとする姿にくわえて「〇〇はどれ？」などと聞かれて、実物や絵本に「これ」と指さして応えるようになります。

→お子さんのことばが発音など正しくなくても否定せず、「そうだね、〇〇だね」と正しいことばを添えてあげましょう。
→お子さんが真似しやすい**幼児語**（プープーやワンワンなど）**擬音語・擬態語**（「滑り台でシューしようね」「お水パチャパチャするね」など）も活用しましょう。子どもにとってはそういったことばのほうが分かりやすいです。



お子さんなりの「つもり遊び」を一緒に楽しみましょう

この頃から、道具を使う遊びを楽しむようになります。たとえば、鉛筆で紙をなぐり書きしたり、スコップで砂をすくったり...自分なりの「〇〇しているつもり」で遊びを楽しみます。→上手に使いこなせなくても、大人も一緒に楽しみ、声かけ・共感しながらやってみせましょう。「できた」「もっとやろう」と喜んで遊びを広げていきます。

1歳6か月児健診では、お子さんと積木を積んだり、一緒に絵を見たりしながら、どんなふうに物を操作するのか？どんなことばを理解しているのかな？自分なりの遊びの世界がどのように広がっているか？などを一緒に確認していきましょう。

乳幼児期の発達は、個人差がとても大きいです。一つのことができないからといって焦らないでください。健診では、積木などのおもちゃを使って遊びながら、お子さんの全体的な発達について、お家の方と一緒に確認していきます。心配なことがあれば、いつでも草津市子育て相談センターへお気軽にご相談くださいね。